

スウェーデン・ストックホルム市に於ける 住宅地格差の発生状況に関する研究

ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科

水村 容子 教授 Hiroko Mizumura



研究概要 福祉国家として知られる北欧スウェーデンの首都ストックホルムにおいて発生している住宅地格差の発生理由と現状を把握

研究シーズの内容

スウェーデンの首都ストックホルムでは、1990年代以降EUへの加盟、新自由主義経済体制への移行などをきっかけとして、高所得階層と所得の低い移民世帯や高齢者世帯の居住地が分断された住宅地格差の状況が発生しています。この研究では、文献調査および住宅政策に関わる市議や研究者へのインタビュー調査を通じて、その状況および影響を明らかにしました。

高級化が進行した住宅地としては、中心部の利便性の高い、エステルマルム、バーサスタン、セーデルマルムなどがあげられます。一方、1960-70年代に開発された郊外住宅地のヤルバフェルトットやフェルシュタ地区において、移民や低所得者の集住が進行し低廉化した街として社会的に位置付けられるようになりました。こうした地区では、教育格差、失業、所得の低い高齢者世帯の集住など様々な問題が出現しています。ヤルバフェルトット地区において、ストックホルム市はヤルバ 2030 という地域再生計画を策定し、大学との連携による語学や職業教育の展開、コミュニティ施設の整備、住民組織の強化など、ハードとソフト施策を組み合わせることにより、住宅地全体の再生事業を展開しています。また、フェルシュタ地区では、アーティストらによって始められた文化活動「コンストホールC」により地域住民の地域への愛着が再構築された事例なども登場しています。



ストックホルム市の行政区 ヤルバフェルトット等で格差化が進行している



移民の街、ヤルバフェルトットのテンスタ地区



ストックホルムの住宅地格差を報じた研究書

研究シーズの応用例・産業界へのアピールポイント

各自治体・地域における住宅セーフティネット構築手法の検討への参考となります。

特記事項(関連する発表論文・特許名称・出願番号等)

スウェーデンにおける1990年代以降の住宅政策の転換およびストックホルムにおける居住状況の変化に関する研究、日本建築学会計画系論文集、第81巻、第730号、2016.12